

イベント実施におけるエコイベントマニュアルへの 取り組みの現状把握及び改善に関する研究 ～三重県主催・共催イベントを事例として～

田中 裕美¹・金谷 健²

¹滋賀県立大学学生 環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻 (〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500)

²正会員 工博 滋賀県立大学助教授 環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻 (同上)

E-mail: kanaya@ses.usp.ac.jp

近年、環境に配慮したイベントが必要とされ、イベント実施方法の見直しが行われている。そうした流れのもと、三重県、石川県、愛媛県などいくつかの自治体では、エコイベントマニュアルが策定されている。しかし、エコイベントマニュアルへの取り組みの現状や問題点は明らかにされていない。そこで本研究では、最初に策定された三重県エコイベントマニュアル(平成12年度策定)を対象として、取り組みの現状把握と改善提案を、エコイベント計画書およびエコイベント実績報告書(平成12年度から平成14年度分;全イベント数155)のデータ分析などにより実施した。

Key Words: Eco-event manual, event, Mie sponsorship / cosponsorship event

1. 研究の背景¹⁾

各地で、様々なテーマや規模のイベントが開催されている。中でも、県主催・共催のイベントの開催は、県の様々な施策の普及啓発に効果的な方法の一つである。また、イベントには多数の人々が集まるため、来場者の環境保全に対する理解や実践活動を促進する良い機会である。しかし、一方では、イベントは公共工事と並んで、大きな環境負荷をかける事業である。

そこで三重県の【三重県エコイベントマニュアル】¹⁾が平成12年に、石川県の【グリーンイベント開催の手引き】²⁾が平成13年に、愛媛県の【えひめエコ・イベント開催手順書】³⁾が平成14年に、福島県の【うつくしまエコイベントマニュアル】⁴⁾、鳥取県の【エコイベントマニュアル エコイベントとっとり】⁵⁾、島根県の【島根県イベント環境配慮指針—しまねエコ・イベントマニュアル】⁶⁾、山形県の【山形県エコイベント指針】⁷⁾、富山県の【富山県エコイベント実施方針】⁸⁾が平成15年に、各種イベントの開催について、従来の実施方法を見直し、イベント自体の開催目的や楽しさを損なうことなく、環境に配慮する視点を具体的に示したエコイベントマニュアルを策定した。このように、エコイベントに関するマニュアルとしてエコイベントマニュアルは全国的に広がりを見せている。そのエコイベントマニュアルは自治体によって様々な形を採っている(表—1参照)。

中でも、三重県エコイベントマニュアルは一足先に

策定され、総実施イベント数155(平成15年4月1日現在)と他の自治体と比べ多い。しかし、エコイベントマニュアル策定から、まだ日が浅く運用実態や問題点は明らかにされていない。

2. 研究の目的

そこで、本研究では、以下の二つを研究目的とする。

①エコイベントマニュアルの取り組みの現状把握を行うこと

②エコイベントマニュアルの改善提案を行うこと

なお、本研究の調査対象は、平成12年に策定され、総実施イベント数155(平成15年4月1日現在)と他の自治体と比べ多い、三重県エコイベントマニュアルとする。

3. 研究の意義

三重県エコイベントマニュアルの取り組み現状の詳細を把握することにより、改善点の提案ができ、三重県エコイベントマニュアルの有効性を導けるものとして意義深い。その結果、一層有意義にイベントを行うことができる。

4. 三重県エコイベントマニュアルの概要

(1)エコイベントマニュアル策定の経緯

三重県は県の事務活動及び事務事業について継続的

表一 各自治体エコイベントマニュアルの形式及び特徴

	計画書	報告書	計画書と報告書の連動*1	計画書と報告書の形式*2	提出義務 予定参加者数 (人以上)	特徴
三重	チェック	記述	×	バラ	500	2回改訂されている
石川	記述	記述	○	合同	×	提出しない
愛媛	記述	記述	○	合同	500	計画書は具体的な項目が挙げられているが記述式で、実行内容を書かなければならない。
福島	チェック	記述	○	バラ	0	提出する計画書・報告書以外にチェックシートがあり、それで計画書と報告書を連動させている。
鳥取	チェック	記述	×	バラ	0	取り組む事項ごとにワンポイントアドバイス、写真が添えられている。
鳥取	チェック	記述	○	合同	1000	関連業務受託者に渡す用のチェックリストがある。
山形	チェック	記述	×	バラ	1000	報告書のみ提出
富山	チェック	記述	○	合同	100	報告書のみ提出

*1計画書で予定した項目が、報告書を見たらわかるかどうか

*2計画書と報告書が同じ紙上にかかれていた場合は合同、バラバラの場合がバラ

な環境負荷の低減を図るため、ISO14001による環境マネジメントシステムを構築し、平成12年2月にISO14001の認証を取得した。環境目的の一つに「イベント開催に際しては、環境に配慮する」ことを設定し、県が開催するどのイベントも環境に配慮したイベント「エコイベント」となるようなシステムづくりを開始した。

検討にあたっては、イベント調整を所管する部署や、県が開催する大きなイベントの事務局スタッフのほか、イベントの開催をボランティアとして支えている市民、環境をキーワードに様々な問題に取り組んでいる市民活動家、さらにイベント開催を受託する立場のプランナーやISO14001の審査員資格者も加わり、様々な立場から活発な意見交換が行われた。その検討内容はイベントを開催する意義から始まり、どんな小規模なイベントでも適用していく工夫や認定マークのデザインまで多種多様な内容となった。そして平成12年4月1日に第一版が制定された。

(2) 対象イベント

三重県エコイベントマニュアルの対象となるイベントは、不特定多数の参加者を対象として開催する式典、催し、行事等のうち、三重県及び三重県が主体となった実行委員会が主催または共催するもので、その実施に際して三重県が管理できるイベントとする。

さらに、三重県が後援する等のイベントについても、三重県が関与できる程度に応じて、環境に配慮したイベントとなるように主催者に協力を求めている。

(3) 環境配慮要件について

イベントを開催することに伴って環境に負荷を与える要因は数多く考えられる。これらの要因がもたらす環境への影響を最小限にするために主催者が心がけるべき事柄を大きく以下の6項目と定め、環境配慮要件としている。これら6項目についての環境配慮を実施したイベントを「エコイベント」と認定している。

1. 自然との共生

2. ゴミ
3. 交通
4. 省エネルギー、省資源
5. 環境啓発
6. 運営体制

環境配慮要件の中には、約束項目と努力項目に分かれている(表一2参照)。約束項目は「必ず実施する。」と定められている。一層の環境配慮にチャレンジする場合は努力項目から選択する。

(4) エコイベント計画書について

a) エコイベント計画書提出の流れ

イベント実施チームマネージャーが、各要件、項目の取り組む手法についてエコイベント計画書を作成し、当該イベントを開催する1ヶ月前までに生活部文化振興チームを担当するマネージャーに報告する。

b) エコイベント計画書記入事項

エコイベント計画書にはイベント名や実施期間などイベントの基本的情報と環境配慮要件について取り組む手法の内容をチェックリスト式で記入。エコイベント計画書の記入事項を以下に示す。

- ① イベント名
- ② 新規・継続 共催・主催の選択
- ③ 実施期間
- ④ 開催場所(市町村名・施設名)
- ⑤ 参加者数(目標参加者数)
- ⑥ 環境配慮要件(取り組む手法について要件ごとにいくつかの項目(表一2参照)があげられている。必ず実施する約束項目の環境配慮の項目を確認し、一層の環境配慮にチャレンジする場合は努力項目から選択する。)
- ⑦ 実施課所
- ⑧ 実施担当者

表—2 各環境配慮要件の約束項目・努力項目

環境配慮要件	努力・約束	取り組む手法の内容
自然との共生	約束項目	会場の選定にあたっては、既存の施設を使います。 開発を伴う場合は、環境への影響を最小限にとどめます。
	努力項目	会場周辺の動植物の生態を十分調査します。 会場施設の整備にあたっては、自然や生物の環境に配慮した工法を採用します。 植樹、魚の放流、風船使用等を行う場合は生態系に配慮します。 排水、騒音、振動、照明の発生に際しては、環境配慮を優先します。 環境への影響に対して、代償措置を行います。 その他
ごみ	約束項目	ごみは、会場がある市町村のルールに従って分別します。 あまった印刷物等は、主催者が持ち帰り、資源化します。
	努力項目	ごみステーションにナビゲーターを配置します。 ゴミ処理のデモンストレーションを実施します。 生ごみの堆肥化をします。 会場内デポジット制度を実施します。 食器持ち込み方式を採用します。 参加者によるごみの持ち帰りをを行います。 スタッフの食事にカフェテリア方式を採用します。 主催者や出展関係者が排出するごみの回収・リサイクルに配慮します。 その他
交通	約束項目	環境負荷の少ない交通手段による来場のお断りをポスター・チラシ等の広報物に掲載します。 施設の選定にあたっては、公共交通機関の利用を最大限考慮します。 ます。
	努力項目	公共交通機関を優先した来場経路の確保や交通規制を実施します。 公共交通機関の利用者に対する特典を設けます。 駐車場内でのアイドリングストップを徹底します。 マイカーの効率利用(定員乗車)とメリット(駐車場指定等)を十分に事前PRするとともに、その運用を徹底して行います。 パーク&ライド方式等の効率のよい交通手段を準備します。 主催者及び関係者の会場集合は公共交通機関の利用や乗り合わせを行います。 テレビ会議システムを活用します。 その他
省エネルギー 省資源	約束項目	使用する資機材の調達は、県のリサイクルセンターを活用します。 照明や空調の温度設定は、周囲の状況に応じて調整します。 印刷物には、再生紙やエコインクを使用します。
	努力項目	イベントで使用する物品は省資源・省エネルギーを考慮してグリーン調達します。 展示パネル等は既存のものを活用します。 チラシやポスターなどの印刷枚数を精査して、作成部数を削減します。 複数イベントで共同して、PRチラシ・ポスターを作成します。 環境負荷につながる経費(印刷、燃料等)を従来比で削減します。 参加者自身の買い物袋持参方式を採用します。 インターネットや電波媒体を活用したPRを行います。 スタッフが使用するユニフォームなどは再使用ができるものを調達します。 他イベントとの共同開催を行います。 プロジェクターを活用するなどして、垂れ幕や看板、配付資料を減らします。 その他
環境啓発	約束項目	ポスター、チラシ、記者発表資料等に環境配慮項目を明記します。 会場内では実施している環境配慮項目を来場者に分かりやすく説明します。
	努力項目	環境に関心のある市民と一緒に環境啓発を企画立案します。 環境配慮の成果を来場者に分かりやすく示します。 会場一斉清掃を参加者全員でイベントとして実施します。 環境配慮についての参加者アンケートを実施します。 イベント開催前に会場周辺の清掃を行います。 その他
運営体制	約束項目	実施計画、運営マニュアル等において環境配慮項目を明記します。 主催スタッフ、ボランティア、出展者等への事前説明において、環境配慮の趣旨や内容を伝え、実施の徹底を求めます。 外部委託を行う場合は、委託業務の仕様書に環境配慮の項目を明記します。
	努力項目	環境配慮を担当するスタッフを選任し、企画段階から終了後までの環境配慮を進行管理します。 環境配慮に関心の高いNPO等の参画やアイデアを広く募ります。 環境配慮について、関係機関・市町村との十分な協議・連携を行います。 協賛スポンサー・出展者には、環境配慮に積極的な企業を優先して依頼します。 その他

(5)エコイベント実績報告書について

a)エコイベント実績報告書提出の流れ

イベント実施チームマネージャーは、計画書により報告した環境配慮の成果等について、イベント実施後

1ヶ月以内にエコイベント実績報告書を作成の上、生活部文化振興を担当するマネージャーへ報告する。

b)エコイベント実績報告書記入事項

エコイベント実績報告書には計画書同様、基本的な

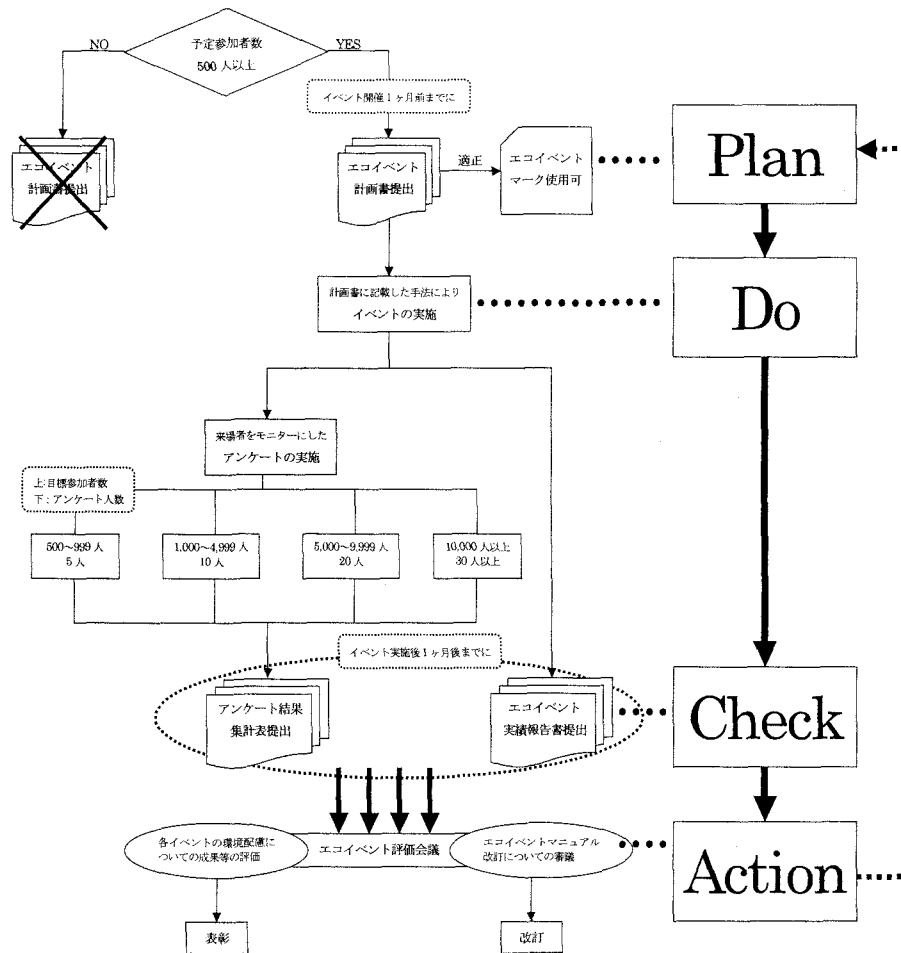


図-1 エコイベント実施フロー図 (田中・金谷が作成)

イベントの情報、取り組み手法の結果・成果及び反省点を具体的に記述式で記入。エコイベント実績報告書の記入事項を以下に示す。

- ①～④ 計画書と同様
- ⑤ 参加者数 (実績参加者数、目標参加者数)
- ⑥ 環境配慮要件 (取り組んだ手法の結果・成果・反省点を具体的に記述式で記入する。)
- ⑦～⑧ 計画書と同様

(6)エコイベントに関するアンケートについて

a)エコイベントに関するアンケート内容

環境配慮要件の取り組み手法の評価を来場者に行ってもらうものである。各環境配慮要件について、記述式もしくは「はい・いいえ」式で記入してもらう。エコイベントに関するアンケート内容について以下に示す。

- ① 環境配慮要件の取り組みの手法の評価
- ② そのイベントの環境配慮について、ひとつこと
- ③ 来場の交通手段
- ④ 年齢

b)エコイベントに関するアンケート実施の流れ

イベント実施チームマネージャーは、事前にエコイベント計画書に記入した目標参加者数に基づきアンケート人数を決める (図-1参照)。さらに、エコイベントに関するアンケートに、イベント名、実施期間を記入し、エコイベント計画書の努力項目に設定しなかった部分の質問を削除する。イベント実施日に来場者をモニターにエコイベントに関するアンケートを行う。イベント終了後、回収したアンケート結果を集計し、集計表と共にエコイベント実績報告書に添付し、イベント終了後1ヶ月以内に生活部文化振興を担当するマネージャーへ報告する。

(7)エコイベント評価会議について

エコイベント評価会議は（不定期、2003年度は5月中旬開催）生活部文化振興を担当するマネージャーから報告のあった各イベントの成果等について評価を行うと共に、特に高く評価できる成果等を上げたイベントについて表彰を行う。

実施されたイベントにおける成果等を参考に、エコイベントマニュアルの改訂について審議し、生活部文化振興を担当するマネージャーに意見を提出する。生活部文化振興を担当するマネージャーは、前項によりエコイベント会議から提出された意見に基づき、必要に応じてエコイベントマニュアルの改訂を行う。

(8)エコイベント実施の流れ

エコイベントマニュアルには【エコイベントシステム実施要綱】として記載されている。ここでは、イベント実施に係る計画等を策定しようとする段階から、環境配慮を行うために必要な手続きの流れを図—1に示す。

5. 研究の方法

目的①については、三重県エコイベントマニュアルのエコイベント計画書、エコイベント実績報告書のデータ分析を行う。また、文献9に基づきイベントを5つの形態にタイプ分けし（表—3）、イベントの形態ごとの現状把握を行う。分析方法は、平成12年～平成14年に三重県生活部文化振興チームに提出された、エコイベント計画書、エコイベント実績報告書の原本のコピーからデータを表にまとめる。そのデータに基づき、エコイベント計画書からは、

取り組み予定率

=各項目をチェックしたイベント数/全イベント数として、取り組み予定を把握。エコイベント実績報告書からは、

取り組み済明示率

=各項目を行ったイベント数/全イベント数とし、現状の把握を行う。さらに、エコイベント計画書で予定された努力項目について、エコイベント実績報告書でどの程度振り返ることができていたかを、イベントごとに、

振り返り率

=（実際に取り組んだと明示されている項目数+実際に取り組めなかったと明示されている項目数）/エコイベント計画書でチェックした項目数として把握。全イベント、イベントの形態別で取り組みを分析する。

さらにイベント見学・ヒアリング調査、また、三重県エコイベントマニュアルを実際に使用してイベン

トを開催している、実施担当者の視点から見た三重県エコイベントマニュアルとはどんなものなのかを把握するために、平成14年度エコイベントマニュアル提出イベントの実施担当者へのアンケート調査を行う。そこから得られたデータを単純集計、クロス集計を行う。

目的②については、目的①の結果に基づいて、新マニュアルの提案を行う。

表—3 イベントの形態別分類と具体的内容

イベントの形態	内容
展示会・博覧会系イベント	国際博覧会
	地方博覧会
	私的博覧会
	見本市・展示会
祭り系イベント	伝統的・継続的祭り
	創作的・継続的祭り
	伝統的・単発的祭り
	創作的・単発的祭り
会議・集会系イベント	各種会議・集会
	講演会・シンポジウム
	講習会・研修会・セミナー
	式典・祝賀会・大会・レセプション・パーティ
文化・芸能系イベント	音楽イベント
	演劇イベント
	文化芸術イベント
	映画・テレビイベント
	科学イベント
	芸能イベント
	アミューズメント・エンターテインメント イベント
スポーツ系イベント	チャンピオンシップ イベント
	エキシビジョン イベント
	トリアル イベント
	レクリエーション・スポーツ イベント
	スポーツ フェア イベント

6. 結果

(1)目的①について

エコイベント計画書、エコイベント実績報告書から取り組みの現状として、取り組みやすい項目は、年度に関係なく、ほぼ同じような項目が取り組みやすいということがわかった。しかし、参加者予定人数が増えることによって取り組みやすい項目が増えることがわかった（表—4）。

さらに、イベントを5つの形態に分けて比較したところ、形態間には顕著な差が見られた（表—5）。イベントの形態ごとの特徴を以下に示す。

a)展示会・博覧会系イベント

エコイベント計画書の時点では、意欲的に取り組もうという姿勢が見られる。しかし、実際行ったかどうかということを明確に書いていないということがいえるため、計画はするが実際に行われにくいことがわかる。

b)祭り系イベント

エコイベント計画書の時点では、意欲的に取り組も

表-4 参加者人数別にみた、取り組みやすい項目(取り組み予定率50%以上が2年以上続いた項目)

全体	印刷枚数 精査	関係車両 の乗り合 わせ											
500~999人	印刷枚数 精査	関係車両 の乗り合 わせ											
1000~4999人	印刷枚数 精査	関係車両 の乗り合 わせ	アイドリ ングスト ップ	既存パネ ル活用									
5000~9999人	印刷枚数 精査	関係車両 の乗り合 わせ	アイドリ ングスト ップ	既存パネ ル活用	排水、騒 音等発生 抑制	ネット広 報、電波 広報	ゴミの持 ち帰り						
10000人以上	印刷枚数 精査	関係車両 の乗り合 わせ	アイドリ ングスト ップ	既存パネ ル活用	排水、騒 音等発生 抑制	ネット広 報、電波 広報	関係機関 と協議	環境ス タッフ選 任	公共交 通機関優 先			ごみナビ ゲーター	

表-5 イベント形態別の取り組み予定率(%)

	全イベント	展示会・ 博览会系 イベント	祭り系 イベント	会議・ 集会系 イベント	文化・ 芸術系 イベント	スポーツ系 イベント
関係車両 の乗り合 わせ	64	89	69	66	51	77
ネット広 報、電波 広	53	75	100	40	54	43
出展者排 出ゴミ回 収	51	100	43	44	63	33
印刷枚数 精査	65	78	100	71	37	82
アイドリ ングスト ップ	47	100	81	37	31	53
既存パネ ル活用	48	67	69	53	29	59
ゴミの持 ち帰り	46	63	64	33	46	57
ごみナビ ゲーター	27	67	56	13	23	24
環境スタ ッフ選 任	27	78	63	24	11	18
排水、騒 音等発生 抑	34	67	56	40	23	18
関係機関 と協議	37	67	69	29	29	35
公共交 通機関優 先	33	56	56	18	37	29
参加者ア ンケート	21	67	31	21	14	6
グリーン調 達	36	44	56	34	31	35

うという姿勢が見られる。取り組み予定率50%以上で取り組み済明示率25%以上の項目が12項目は5形態中最も多いため、取り組みやすい項目の幅が広いといえる。

c) 会議・集会系イベント

エコイベント計画書の時点から、75%以上の取り組み予定率がなく、取り組みに対して活発さは見られない。環境配慮要件ごみの分野が低い取り組み予定率を示している、取り組み予定率が0%の項目が最も多い(その他は除く)のが特徴である。振り返り率が25%

未満のイベントが44%と他の形態に比べ最も高い値を示している(図-2)。会議・集会系イベントで環境配慮の要素を取り入れるのが難しいということがわかる。

d) 文化・芸術系イベント

エコイベント計画書の時点から、75%以上の取り組み予定率がなく、取り組みに対して活発さは見られない。しかし、全項目取り組みが予定されていて(その他は除く)、幅広く予定されているというのが特徴である。振り返り率が75%以上のイベントの割合が他の形

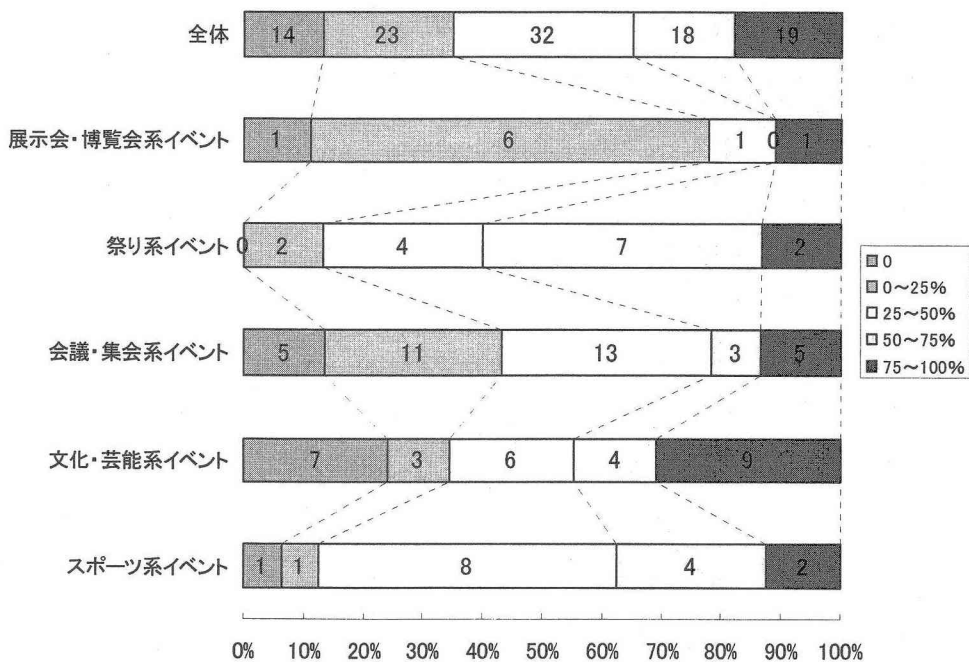


図-2 振り回り率の分布 (全体、イベント形態別)

表-6 エコイベントの実施方法の理解度
(現在のエコイベント計画書のチェックリスト式で)

理解しやすい	68%
やや理解しやすい	16%
どちらともいえない	16%
あまり理解しにくい	0%
理解しにくい	0%

表-7 環境配慮項目の理解度

(現在のエコイベント計画書のチェックリスト式で)

理解しやすい	60%
やや理解しやすい	40%
どちらともいえない	0%
あまり理解しにくい	0%
理解しにくい	0%

表-8 エコイベント実績報告書を書くことでイベント
を振り返ることができたか

はい	92%
いいえ	8%

表-9 現在のエコイベント実績報告書がイベント
を振り返るものとして適しているか

適している	32%
やや適している	28%
どちらともいえない	40%
あまり適していない	0%
適していない	0%

表-10 チェック項目と実施状況の比較 (第24回みえ高文祭)

エコイベント計画書	イベント見学	エコイベント実績報告書
植樹等生態系配慮	■植樹、魚の放流、風船の使用等はなかった	
排水、騒音等発生抑制	■ホールでの舞台発表であったため、騒音の発生はなかった	
ごみナビゲーター	■ゴミ箱設置箇所は1箇所、ナビゲーターはいなかった	
食器持ち込み	■茶道部の呈茶会で使われた器の持ち込みがあった	
ごみの持ち帰り		■参加校がゴミを分別したうえ、持ち帰り処分した
カフェテリア方式		
アイドリングストップ		
定員乗車特典		
パーク&ライド	■交通手段は、自家用車が公共交通機関であった	
その他交通(インターネットによる情報伝達)		
既存パネル活用		■使用する資機材については、各校から持参すると共に、施設の既存設備を使用した
印刷枚数精査	■裏紙の使用がされていた	
経費削減		
買い物袋持参方式		
ネット広報、電波広報	■HPでのPRが行われていた	■PRIは、HPを作成し、インターネットや公共放送などを利用して行った
再利用ユニフォーム		
イベント共同開催	■第13回三重県立高等学校産業フェアと第46回三重県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会との共同開催	
垂れ幕、看板削減	■プロジェクターの活用はなかったが、必要な垂れ幕や看板はなかった	
開催前の会場周辺清掃		
環境スタッフ選任		
関係機関と協議		
環境配慮企業優先		
自然との共生	■既存施設の利用	■既存施設の利用
ごみ		■ゴミステーションを設置し、分別に努めた ■再利用できる物は、持ち帰り再利用する
交通	■無料シャトルバスが15分に1本運行されており、ほとんどの生徒が利用していた	■参加関係者は、乗り合わせ及び公共交通機関による来場を徹底した ■無料のシャトルバス(2台)を運行した
省エネルギー・省資源		■印刷物については、再生紙を使用した
環境啓発	■ポスターなどに環境配慮項目が明記されていなかったため来場者にはわかりにくかった ■生徒委員へのヒアリング調査により、ゴミ分別とシャトルバスの運行という答えが返ってきた(スタッフへ環境配慮の趣旨、内容が伝わっていない)	■印刷物にエコマークを掲載した ■目立つ場所に分別用のゴミ箱を設置した ■参加関係者に対して、事前説明において趣旨の理解と実施を促し、徹底した
運営体制		

表-11 取り組みやすさの定義 (★が多いほど取り組みやすい、とした)

約束項目	★★★★★★
取り組み予定率50%以上	★★★★★☆☆
取り組み済明示率が25%以上の項目	★★★★★☆☆
取り組み予定率50%以上	★★★★★☆☆
取り組み済明示率が25%未満の項目	★★★★★☆☆
取り組み予定率50%未満	★★★★★☆☆
取り組み済明示率が25%以上の項目	★★★★★☆☆
3と6が重なった場合	★★★★★☆☆
他のどれにも当てはまらない項目	★★★★★☆☆
取り組み済明示率0%	★★★★★☆☆
アンケート調査問7で50%未満の項目	★★★★★☆☆
取り組み済明示率0%より上	★★★★★☆☆
アンケート調査問7で50%以上の項目	★★★★★☆☆
取り組み済明示率0%	★★★★★☆☆
アンケート調査問7で50%以上の項目	★★★★★☆☆

*アンケート調査問7:「イベントを行う上で、現在の環境配慮項目の中で関係がないと思われた項目は？」

表—12 新エコイベント計画書（文化・芸能系イベント）

環境配慮要件	当該要件について取り組む手法の内容	取り組みやすさ
自然との共生	<input type="checkbox"/> 会場の選定にあたっては、既存の施設を使います。	★★★★★
	<input type="checkbox"/> 開発を伴う場合は、環境への影響を最小限にとどめます。	★★★★★
	<input type="checkbox"/> 排水、騒音、振動、照明の発生に際しては、環境配慮を優先します。	★★★☆☆☆
	<input type="checkbox"/> 会場施設の整備にあたっては、自然や生物の環境に配慮した工法を採用します。	★★★☆☆☆
	<input type="checkbox"/> 植樹、魚の放流、風船使用等を行う場合は生態系に配慮します。	★★★☆☆☆
	<input type="checkbox"/> 会場周辺の動植物の生態を十分調査します。	★★★☆☆☆
	<input type="checkbox"/> 環境への影響に対して、代償措置を行います。	★★★☆☆☆
	<input type="checkbox"/> その他()	
ごみ	<input type="checkbox"/> ごみは、会場がある市町村のルールに従って分別します。	★★★★★
	<input type="checkbox"/> あまった印刷物等は、主催者が持ち帰り、資源化します。	★★★★★
	<input type="checkbox"/> 参加者によるごみの持ち帰りをを行います。	★★★☆☆☆
	<input type="checkbox"/> 主催者や出展関係者が排出するごみの回収・リサイクルに配慮します。	★★★☆☆☆
	<input type="checkbox"/> ごみステーションにナビゲーターを配置します。	★★★☆☆☆
	<input type="checkbox"/> ごみ処理のデモンストレーションを実施します。	★★★☆☆☆
	<input type="checkbox"/> 生ごみの堆肥化をします。	★★★☆☆☆
	<input type="checkbox"/> 会場内デポジット制度を実施します。	★★★☆☆☆
	<input type="checkbox"/> 食器持ち込み方式を採用します。	★★★☆☆☆
	<input type="checkbox"/> スタッフの食事にカフェテリア方式を採用します。	★★★☆☆☆
	<input type="checkbox"/> 分別用ゴミ袋を配布します。	NEW
<input type="checkbox"/> その他()		

*環境配慮要件「交通」以下（表—2参照）を、論文スペースの都合で省略。

表—13 新エコイベント実績報告書（文化・芸能系イベント）

	当該要件について取り組む手法の内容	計画書	結果・成果・反省点(具体的)	取り組みやすさ
自然との共生	会場の選定にあたっては、既存の施設を使います。	<input type="checkbox"/>		★★★★★
	開発を伴う場合は、環境への影響を最小限にとどめます。	<input type="checkbox"/>		★★★★★
	排水、騒音、振動、照明の発生に際しては、環境配慮を優先します。	<input type="checkbox"/>		★★★☆☆☆
	会場施設の整備にあたっては、自然や生物の環境に配慮した工法を採用します。	<input type="checkbox"/>		★★★☆☆☆
	植樹、魚の放流、風船使用等を行う場合は生態系に配慮します。	<input type="checkbox"/>		★★★☆☆☆
	会場周辺の動植物の生態を十分調査します。	<input type="checkbox"/>		★★★☆☆☆
	環境への影響に対して、代償措置を行います。	<input type="checkbox"/>		★★★☆☆☆
	その他()	<input type="checkbox"/>		
ごみ	ごみは、会場がある市町村のルールに従って分別します。	<input type="checkbox"/>		★★★★★
	あまった印刷物等は、主催者が持ち帰り、資源化します。	<input type="checkbox"/>		★★★★★
	参加者によるごみの持ち帰りをを行います。	<input type="checkbox"/>		★★★☆☆☆
	主催者や出展関係者が排出するごみの回収・リサイクルに配慮します。	<input type="checkbox"/>		★★★☆☆☆
	ごみステーションにナビゲーターを配置します。	<input type="checkbox"/>		★★★☆☆☆
	ごみ処理のデモンストレーションを実施します。	<input type="checkbox"/>		★★★☆☆☆
	生ごみの堆肥化をします。	<input type="checkbox"/>		★★★☆☆☆
	会場内デポジット制度を実施します。	<input type="checkbox"/>		★★★☆☆☆
	食器持ち込み方式を採用します。	<input type="checkbox"/>		★★★☆☆☆
	スタッフの食事にカフェテリア方式を採用します。	<input type="checkbox"/>		★★★☆☆☆
	分別用ゴミ袋を配布します。	<input type="checkbox"/>		NEW
その他()	<input type="checkbox"/>			

*環境配慮要件「交通」以下（表—2参照）を、論文スペースの都合で省略。

態に比べて高いが、同時に振り返り率 0%の割合も高い。イベントに幅の広さがあることがわかる。

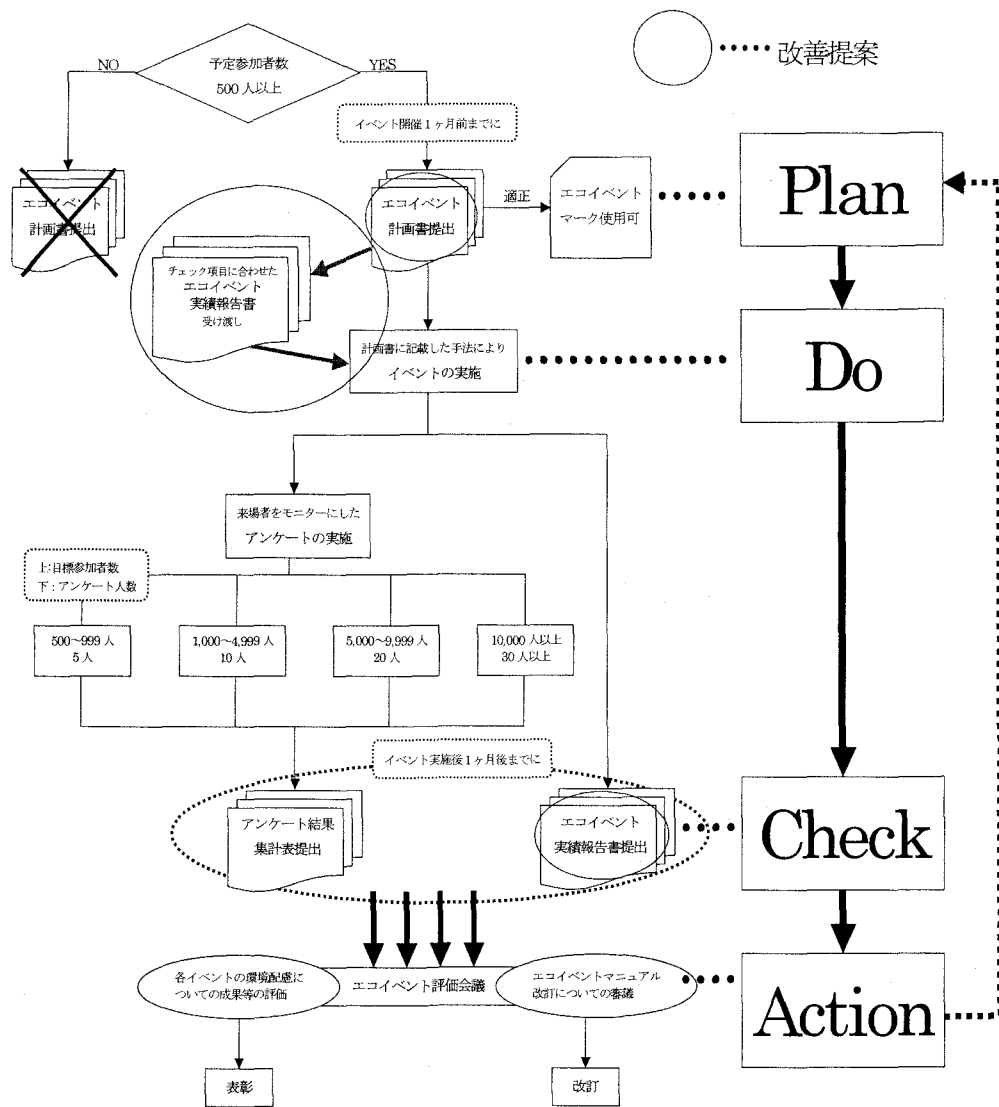
e) スポーツ系イベント

エコイベント計画書の時点では25%未満の取り組み予定率の項目が多いが、75%以上の項目もあり、差が激しい。同様に、取り組み済明示率も差が激しい。他の形態のイベントに比べ、振り返り率が高いことがわかる。しかし、スポーツ系イベントに相応しくない項目が多いといえる。

以上のようにイベントの形態の差が取り組みの状況の差に大きな影響を及ぼしていることが明らかになった。

また、平成14年度エコイベントマニュアル提出イベントの実施担当者へのアンケート調査結果（N=25名）より、以下のことが明らかになった。

- ①エコイベント計画書は現在のチェックリスト式



図—3 エコイベント実施フロー図の改善提案

で問題ない (表—6, 表—7参照)。

②エコイベント実績報告書は必要である (表—8, 表—9参照)。

③エコイベント実績報告書はエコイベント計画書のようなチェックリスト式を取り入れた方が連動してイベントを振り返りやすい。

さらにイベント見学(「第24回みえ高文祭」, 「第13回三重県高等学校産業教育フェア」, 「第4回みえ人権フォーラム」の3つのイベントを見学)から、以下のこ

とが推測された (表—10参照)。

①約束項目は必ず実施することと定められているが、実際すべて行うことは難しい。

②来場者に対する環境啓発があまり行われていない。

③努力項目に対してエコイベント実績報告書に書かれた項目が少ない。

(2)目的②について

a)書式の改善提案

エコイベント計画書は、イベントの形態の違いが取り組みやすい項目、取り組みにくい項目に差が出るのがわかった。そこで、取り組みやすさの定義（表-11参照）を行い、イベントの形態ごとに取り組みやすい項目順に並び替えたチェックリスト式のエコイベント計画書を提案した（表-12参照）。さらに、イベント見学から、約束項目は必ず実施することと定められているが、実際すべて行うことは難しいとわかったので、約束項目・努力項目という枠組みを取り除くことにした。

またエコイベント実績報告書は記述式だけでは振り返り率が低く、さらにアンケート調査結果からも現在の記述式だけでなく、チェックリスト式を付け加えるべきであるという結果であったため、チェックリスト式を付け加えたエコイベント実績報告書を提案した（表-13参照）。

b) 流れの改善提案

エコイベント計画書を生活部文化振興チームを担当するマネージャーに提出した後、マネージャーは、そのイベント担当者にチェックしてある項目だけ選び抜いた形のエコイベント実績報告書を渡し、イベント終了後そのエコイベント報告書に結果・成果・反省点を具体的に記入し提出するという流れに改善することを提案した。複合イベントに関しては当てはまるイベントの形態の計画書をすべて渡し、そのうち1つを提出するという流れにすることを提案する（図-3参照）。

7. まとめ

三重県エコイベントマニュアルの運用実態を調査したことにより、現在のエコイベントマニュアルの弱点を明らかにすることができた。それは、大きく分けて2点ある。イベントの形態別に取り組みやすい項目に差がある点、及びエコイベント計画書とエコイベント実績報告書が連動していない点である。それらを踏まえて、本研究では、改善点を指摘したエコイベントマ

ニュアルを提案することができた。

参考文献:

- 1) 三重県エコイベントシステム HP
<<http://www.pref.mie.jp/bunka/gyousei/eco/>>, 2003-12-5.
- 2) グリーンイベント開催の手引き HP
<http://www.pref.ishikawa.jp/kankyo/pp/green_event/greenevent.pdf>, 2003-11-28.
- 3) えひめエコ・イベント開催手順書 HP
<<http://www.pref.ehime.jp/kankyou/k-hp/iso/pdf/03eco-event.pdf>>, 2003-11-28.
- 4) うつくしまエコイベント HP
<<http://www.pref.fukushima.jp/hozen/eetop.htm>>, 2003-11-28.
- 5) 鳥取県とりネット HP
<<http://www.pref.tottori.jp/kankyokanri/EcoEvent/>>, 2003-11-28.
- 6) 島根県イベント環境配慮指針—しまねエコ・イベントマニュアル—HP
<http://www.pref.shimane.jp/section/kankyo/iso/pdf/446_4.pdf>, 2003-11-28.
- 7) 山形県エコイベント指針 HP
<http://www.pref.yamagata.jp/bk/kanki/488700/eco_event_shishin-2.pdf>, 2003-11-28.
- 8) 富山県エコイベント実施方針 HP
<<http://www.pref.toyama.jp/sections/1705/iso/21Event/ecoevent.doc>>, 2003-11-28.
- 9) イベント業務基礎知識講座-1 イベント概論編, pp. 34-37, 社団法人日本イベント産業振興協会, 1994.

RESEARCH ON PRESENT CONDITION GRASP AND IMPROVEMENT ON ECO-EVENT MANUAL IN EVENT ENFORCEMENT

—CASE STUDY ON MIE SPONSORSHIP/ COSPONSORSHIP EVENT—

Yumi TANAKA and Ken KANAYA

In this research, the Eco-event plan document and the Eco-event actual result report with which the present condition of the measure for an Eco-event manual is submitted by making Mie sponsorship/ cosponsorship event into an example were analyzed, and it has grasped. Furthermore, a questionnaire, and event inspection and hearing investigation were performed, and the form of an Eco-event manual and the improvement proposal of a flow were performed based on those results.